

メモ

Ruled lines for a memo page.

ボカシ 3000

使用マニュアル

インレット事業部

特 徴

1. 「#3000」クラスの研磨剤を使用し、「溶剤系脱脂剤」と「活性酵素」を混合している。
2. 塗装時の不純物を除去する。
3. ボカシ際のキズを取ってもキズを残さない。
4. ボカシ際の塗料のなじみが良い。

用 途

1. 鏡面仕上げのボカシ塗装部分の前処理として、
※ 足付け脱脂が同時にできる。(プラス洗浄効果)
2. 鏡面仕上用液体ペーパーでボカシ塗装部分のキズを取り、キズを残さない。
3. ウィンドーガラスの油膜・水アカ・タール落としとして。
4. フッ素塗装に最適です。

現 況

1. 塗装をしようとする旧塗膜には、油・ワックス・よごれなどがこびりついている。
特に、油膜・ワックス分は、約50℃の温度と紫外線で酸化・硬化し塗面に付着する特徴がある。酸化・硬化された油膜・ワックス分は、ペンキ状になり旧塗膜にこびり付き、なかなか取れにくい。
2. 「溶剤系脱脂剤」(シリコンオフ等)の場合は、油膜・ワックス分を浮き上がらすことはできるが、溶剤が蒸発してしまうと酸化されている油膜・ワックス分はもとの旧塗膜にこびり付いてしまう。又、溶剤系脱脂剤がぬれている内に新しいウエスで拭き取った場合でもウエスをまんべんなくひっくり返さないとウエスに付着し、酸化された油膜・シリコン分が拭き取りの際に旧塗膜に再付着してしまうことがある。このように、旧塗膜に酸化された油膜・シリコン分が少しでも残った場合には密着不良・ハジキの原因にもなる。
3. ボカシ塗装の場合は、足付けの目の大きさも考えなければならない。足付けをした内側でボカシが終わるようにするので足付け目が大きすぎると、その目を消す為に、さらに大きな目のコンパウンドを使用しなければならない。
せっかくボカシをした最後の一塗りの部分は、塗膜そのものがかなり薄くなっており、荒目のコンパウンドを使用することによりボカシ目が出やすくなるので、この部分の研磨は再度微粒子の研磨剤(#3000クラス以上)を使用する必要がある。

※ ボカシ3000は先に述べたように、足付け目の大きさは#3000クラスでキズの大きさとしては全く問題はない。

酸化された油膜・ワックス分は、研磨剤と脱脂溶剤で浮き上がらせ、さらに活性酵素によって中和させる。(ゲルの状態)

中和された油膜・ワックス分は、ゲル化されてベタ付きがなくなり、単に旧塗膜にのっているだけの状態になっているので、後はきれいなぬれ雑巾をしぼって拭き取れば旧塗膜の部分は、油分も汚れもなく塗料の密着と塗料のなじみが良い状態になる。

使用方法

1. ウェスにボカシ3000を適量しみこませ、雑巾がけをする要領で塗装部分を拭いて下さい。
2. ポリッシャーの場合は飛び散らさない程度にスポンジバフに水を含ませてからボカシ3000を適量つけて御使用下さい。
3. きれいなぬれ雑巾でボカシ3000を拭き取った後、更にタックSPで静電防止ホコリ取りをして下さい。(特にホコリは念入りに取って下さい。)
4. 準備OK 塗装を始めて下さい。
5. ボカシ後のはみ出た足目は超微粒子コンパウンド(ミラーポリマー502)で簡単に取れます。

〔注意事項〕

- 使用前にボトルをよく振って下さい。
- 直射日光下での使用はしないで下さい。
- 塗装直後の使用はしないで下さい。

他社品との違い

	ボカシ3000	Y社	T社
脱脂性	◎	◎	◎
研磨性	◎ 研ぎむらが出ない	◎	○
足付け目	#3000以上		
拭き取り	◎ ぬれ雑巾をしぼって拭き取る	×	△

鏡面仕上げのファンデーション

ボカシ際の鏡面仕上用液体サイドペーパー

それが“ボカシ3000”です。